



こんにちは～ 教育支援室です！

コロナが収束することなく、新年度を迎えました。

コロナ禍の生活に慣れたような…いやいや、いろいろなことの我慢も、マスクもまだまだ息苦しい…。そんな中でも、ピッカピカのランドセルや少し大きめの真新しい制服姿に、心がほっこりします。

今年度もこの「みみより通信」で、プチ情報をお届けしていきたいと思います。これからも、教育支援室をよろしくお願いま～す！



新年度にあたり、井上靖教育長から、教職員に向けて、メッセージが発信されました。その中に特別支援教育に関するものがありましたので、紹介させていただきます。

ある校長先生が、『学校生活支援員をつけていただくのはありがたいのですが、それによって、子ども同士の関わりがなくなる場合があります。今は支援が必要でも、学年が上がり、成長するにつれ、支援員をはずしていくのが望ましいですね』と言われました。まさにそのとおり！先生方へのお願いです！特別な支援が必要な児童生徒に限らず、子どもたちの「自立」にどう関わっていくかを、大事にしていきたいと思います。

教育支援室では、年度始めの4月1日に新規採用等学校生活支援員研修、夏休み中に学校生活支援員（参加希望の加配保育士を含む）研修を実施しています。そこでのキーワードは、子どもたちの「自立」と「社会参加」です。学校生活支援員（加配保育士）は「自立」に向けて、担任の先生からの指示を受けて、日々関わっています。

ご家庭ではどうでしょうか？ お子さんは、お手伝いをしていますか？ 一人できそうなことに、つつい親が手を貸していませんか？

教育支援室が実施している療育・教育相談の講師である上岡一世先生が、いつも言われています。『家族の中での存在価値が大事！ 家族の中で役割があること、手伝ってくれてありがとう！と感謝される、褒められる経験が必要』

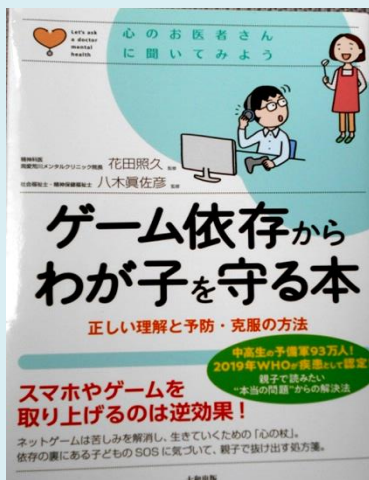


小さなことからでいいのです。（玄関の靴を並べるとか、お皿を片付けるとか）小さな積み重ねが、自立への一歩となるはずです。学校と家庭が手を携えて、お子さんの自立を目指していきましょう！お子さんの成長とともに学校生活支援員の「支援」が減り、不要となるよう教育支援室もお手伝いしたいと思います。

いつでも、ご相談ください。

心のお医者さんに聞いてみよう 『ゲーム依存からわが子を守る本』 正しい理解と予防・克服の方法

大和出版



厚生労働省の統計では、スマホやゲームに依存する中高生は93万人にのぼるとされています。ネットゲームは依存症の形であって、原因ではありません。ゲームやネットを無理やり取り上げても、基本的な原因を取り除かなくてはなんの解決にもならないのです。子どもを依存に向かわせるのは、心の苦痛です。多くの子どもは家庭や学校に居場所がなく、孤立に苦しんでいます。いわばゲームは、心に悩みを抱える子どもが生きるのに必要な「心の杖」ともいえるのです。心のSOSのサインだと受け止めて、他に楽しめるものを、親子で一緒に見つけましょう。家庭を安心できる場所にしていきましょう。

“もしかして、依存症？” 当てはまるものがないか、子どもとチェックしてみよう!

- ネットに夢中になっていると感じる
- 予定よりも長時間使用する
- 制限しようとしてもうまくいかなかったことがある
- トラブルやいやな気持ちから逃げるために使用する
- 使用しないと落ち着かない、イライラする
- 熱中を隠すため、家族らに嘘をついたことがある
- 使用時間がだんだん長くなる
- ネットのせいで人間関係などを台なしにした、しそうになった

(5個以上当てはまると依存の可能性あります。)



Q&Aでわかる子どもの 『ネット依存とゲーム障害』 少年写真新聞社



アプリの中でも最も依存症が高いのはゲーム、特にオンラインゲームです。WHO（世界保健機関）は、2019年5月にゲーム障害（ゲーム依存と同等）を新たな疾病と認定しました。患者の多くは若者で、未成年者が全体の3分の2を占めています。ゲーム障害の健康・社会生活への影響は大きく、遅刻、欠席、成績低下、親への暴言・暴力、昼夜逆転、ひきこもりなどが多くの者に見られます。学校現場では、ネットやスマホの使用をめぐる問題が深刻になっています。スマホの使い方に関わる問題、SNSにまつわる人間関係、ネット・ゲーム依存関連問題などの対応をQ&A方式で書かれている本です。

今年度の教育支援室の行事は、4月15日発行の「支援室だより」裏面に載せています。参加を希望される方は、教育支援室までお電話ください。 ☎ 21-6864

